

新潟市潟環境研究所 平成27年度第1回定例会議（概要）

日時：平成27年5月28日（木）午後3時～午後5時15分

場所：新潟市役所第1分館101会議室

■会議概要

1 報告及び情報提供

- ・平成27年度潟環境研究所体制について（事務局）
- ・ビュー福島潟名誉館長就任について（水の駅「ビュー福島潟」）
- ・「市民ハクチョウ・ホワイト・フェスタ（仮称）」について（環境政策課）
- ・鳥屋野潟湖岸堤整備について（まちづくり推進課）
- ・企画展「田んぼで魚とり展」について（みなとぴあ）

2 講義

※今年度の講義について

今年度の定例会議では、市内にある潟で活動している団体の皆さまから講義をお願いする予定です。今回は「鳥屋野潟」に関する活動についての講義です。

「もっともっと鳥屋野潟の魅力を引き出したい」（村尾建治ほか／新潟市南商工振興会）

【その1】「カナル彩」を中心とした鳥屋野潟及びその周辺の盛り上げ

山口浩二／新潟市南商工振興会副会長

「カナル彩」は新潟市南商工振興会が主催する「NIIGATA スプリングフェスティバル」と新潟県が主催する「新潟県都市緑花フェア」の合同イベントの総称である。今年は、2015年4月26日（日）に開催され、1日で約10万人の集客があった。今年はじめての試みとして、ロボット大会を開催したが、数年後には水質改善ロボット、潟底清掃ロボットなどを使った、鳥屋野潟の浄化につながるような大会にもしていきたい。「カナル彩」の今後としては、イベントのきっかけがクリーン作戦だったことから、水の浄化を目指す「クリーン」をキーワードとしてすすめていきたい。

【その2】鳥屋野潟周辺のブランド化を目指す～ポータルサイト紹介～

松浦柗太郎／新潟市南商工振興会会員

「潟」再生とブランディングのプラットフォームにするという目的のもと、鳥屋野潟の魅力を8つの切り口から発信していくポータルサイト「TOYANOGATA.jp」を開設した。

かつて鳥屋野潟はそこで泳いだり、魚をとったり、生活に密着した場だった。もう一度再生して、今の暮らしにあったかたちで鳥屋野潟の魅力を伝えていきたい。このサイトでは、鳥屋野潟周辺のイベント、お店、もの、人の魅力といった、いまの鳥屋野潟がわかるような情報を伝えたい。「水と土の芸術祭2015」の開催期間中、潟の歴史・素材感・世界観にスポットをあてた手みやげを販売する「潟マルシェ」、潟周りの飲食店と新潟の個性豊かな農家がコラボレーションして限定メニューを出す「潟食めぐり」、出展作家との作品鑑賞や交流会などを企画している。

【その3】「とやの潟環境舟運」を中心とした潟の活用の仕方及び今後の展開

相楽 治／新潟市南商工振興会事務局長

昨年とやの潟の真ん中に 20 数人乗り回遊船を出した。「とやの潟環境舟運」のねらいは、職・住・遊融合の水と触れ合いながら暮らせる贅沢な潟ライフブランドづくりにある。2015 年は「潟の再生・活用の可能性を探る」をテーマに、乗船とカヌー体験など潟の広さを体験し、潟をじっくりと考えてもらうためのメニューを実施する予定である。

今後は、潟の魅力発見とその活用の仕方に着目し、経済的、社会的、都市的な側面から潟を再評価していきたい。今の汚いままの鳥屋野潟ではなく、シジミがとれた頃の豊かな時代の環境に戻したい。そのためには“人間と潟とのよい関係”のような潟を復活させ、環境教育・潟育・癒しの舟運が実施できるようにしていきたい。

【その4】魅力を増していく鳥屋野潟への期待と夢 村尾建治／新潟市南商工振興会会長

鳥屋野潟を魅力的で賑わいのある憩いの場にしたと考えている。

湖面には様々な種類のボートが何艘も浮かび、白いヨットが数艘風を受けて走っている、そのような楽しくて魅力的なかつての潟面（湖面）を取り戻したい。また、鳥屋野潟でとれた魚介類は“潟ブランド”で本町市場や人情横丁で飛ぶように売れていた時代があった。豊かな潟の恵みを再び、楽しんでもらえるようにしたい。将来、潟の周辺にはロボット産業が定着し、ロボットバレーと呼ばれるような、日本のロボット技術を先導する場として活力がうまるといい。

潟の浄化だけでなく、まわりの街並みも整備したら、鳥屋野潟周辺は訪れる人々に夢と創造を与える場となる。“水の都にいがた”と認識してもらうには「鳥屋野潟がキラキラと魅力的に輝くこと」で実現できるのではないか。そんな鳥屋野潟にしたい。